

## 第 12 回 南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

令和 5 年 7 月 31 日(月)

午後 1 時 30 分～午後 4 時 15 分

本庁舎 2 階 大会議室

### 参加者

【推進会議委員】(50 音順)

飯淵 哲委員、石坂 智恵委員、押木 高志委員、金子 和弘委員、熊倉 浩靖委員長、桑原 信之委員、羽吹 忍委員、以上 7 名

(欠席：岩佐 十良委員、関 聡副委員長、マクレラン 牧子委員)

【南魚沼市】

林市長、南雲総務部長、平賀市民生活部長、西潟商工観光課長、南雲建設部長、片桐教育部長、内藤上下水道部長、若井消防長、若井 U & I ときめき課長、吉田生涯スポーツ課長、梅澤生涯スポーツ係長

(欠席：井口市民病院事務部長)

事務局(企画政策課)：高橋企画政策課長、見留主幹、小林主幹、由良主任

### 1. 開会

(進行:高橋企画政策課長)

### 2. 市長挨拶

(林市長)

皆さんこんにちは。市長の林茂男でございます。今日は、御出席いただきまして大変ありがとうございます。それぞれお忙しい皆さんでありますので、本当にありがたく思っております。まち・ひと・しごと創生推進会議には、前回から任期を継続していただいた方が多くいらっしゃいます。本当にありがたく思っております。重ねて私からも感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

私も市長 2 期目の後半に入りました。この間、若者たちが帰って来られる、住み続けることができる故郷ということで、どの自治体でも同じような言葉が使われて、決して珍しくない言葉になりました。地方からの思いは本当にそういうものだと思っています。

そんな中での政策展開であります。任期の約半分はコロナの対応に追われたところであり、まだ続いてはおりますけれども、ようやく違う方向に勢いよく足を踏み出していけるかなという時期になったと思っています。

今回は、この地方創生交付金事業の 2 年度目となっておりますが、この部分を私ども担当から説明させていただいて、委員の皆さんから事業の評価につきまして、忌憚のない御意見をあげていただければと思います。またこれらを活かしながら、前に進めてまいりたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

国連事務総長さんが、地球温暖化という名前はもう古くなったということで「沸騰する時代」という発言のとおり、まさに連日猛暑が続いています。そんな中、庁舎の隣の公園に雪の山を築いていますが、グランピングで使っているドームにこの冷たい空気を送る実験をしていま

す。運動施設では合宿が最盛期を迎えておりますが、クールダウンやメディカル面での対応が必要な時にこうした施設を利用できないかということで、数年間かけて取り組んできました。私が市長になった6年半前は、SDGsという言葉はありませんでしたし、脱炭素社会という言葉もあまり聞くことはありませんでした。私どもとしては、苦しめられてきた雪を新たに使うことができないかということから、市内には12棟の体育館レベルの雪室があり、産業化が進んでいるところです。

これらの取組は、これから公共施設についても、技術革新が進む中で、雪によって冷やすこともできるかもしれません。この発想を雪のない地域にも持っていくことも含めて、雪国が貢献できることは、少なくないのではないかと信じて、いろいろな仕事に取り組んでいるところです。

冒頭申し上げました皆さんからのそれぞれのお立場からの専門分野の目線や市民の目線から御指摘いただき、それらが前につながっていくと思いますので、よろしくお願い申し上げます。開会の御挨拶とさせていただきます。どうぞ本当に暑い中ではございますが、よろしくお願いいたします。

#### 資料及び出席委員の確認

##### (高橋企画政策課長)

- ・当日の資料の確認
- ・資料2-1と資料4の訂正箇所の説明
- ・出席、欠席委員の報告
- ・新任の石坂委員、押木委員、金子委員の紹介、挨拶
- ・市側の欠席者について報告

### 3. 委員長・副委員長の選出について

#### (高橋企画政策課長)

今回新たな任期で初めての会議となりますので、委員長と副委員長の選考をお願いしたいと思います。この推進会議では、設置要綱の規定によりまして、委員長と副委員長を置くことになっており、委員の互選により選出することとなっております。

委員長につきましては、総合戦略策定に中心的に関わって携わっていただき、前回も委員長を務めていただいた熊倉委員に引き続きお願いしたいと思います。副委員長につきましても、引き続き、関委員をお願いしたいと思います。委員の皆様から御意見を願います。

#### (一同)

異議なし

#### (高橋企画政策課長)

それでは、引き続き熊倉委員を委員長、関委員を副委員長として、また新しい任期をよろしく願います。では、熊倉委員長から一言ご挨拶をお願いします。

#### (熊倉委員長)

初めてお会いする方もいると思いますが熊倉と申します。私は県外の人間なんですけれども、むしろ市外の人間の方が市内の皆様の意見が出やすいということもありますので進行を務めさせていただきます。ご協力のほどお願いいたします。

#### 4.議題（1）令和4年度地方創生推進交付金事業の効果検証について

（熊倉委員長）

今回は、2つの事業の効果検証に関して事務局から説明をいただき、それに関して市民、事業者の皆様から御意見を賜りたいと思っております。

（企画政策課 見留企画主幹）

資料1及び資料2-1により事業の位置づけ、資料の見方を説明

#### 資料2-1：「みらいの雪国を創る人材育成及びしごと創生事業」

（若井U&Iときめき課長より説明）

（熊倉委員長）

それでは御意見をいただきたいと思えます。説明で分からなかった点、もう少し丁寧に話をしてほしいことがあれば、お聞きしたいと思えます。桑原委員はすでに何回か参加されていますが、分からなかったことはございますか。

（桑原委員）

特に説明で不明な点はありませんでした。

（熊倉委員長）

羽吹委員はどうでしょうか。

（羽吹委員）

この新規就農者数の10人は、どういった方がなられたのでしょうか。例えば県外から農業をやりたいということで来たのか、それとも地元で全然違う仕事をやっていて農業に目覚めたとか、どういった方なのでしょうか。

（若井U&Iときめき課長）

ほとんどが地元の方で、新たに農業をやりたいという方です。中には市外から農業をやりたいという方もいますが、ほぼ市内の方です。

（羽吹委員）

年齢的にはどうですか。

（西潟商工観光課長）

10名の就農された方で平均すると34.2歳ということになっております。先ほどの若井の説明の補足ですが、10人のうちお一人だけ魚沼市出身の方がいらっしゃいます。併せて昨年度（令和3年度）20名ということですが、この中でやめた方はいませんでした。

（熊倉委員長）

農事組合法人等で新たに入られた従業員などではなくて、あくまでも個人としての新規就農者ということですか。

（西潟商工観光課長）

10名のうち4人が法人に就職されたということで、残り6名は個人の新規就農ということですか。

（熊倉委員長）

令和3年度の20人というのは。

（西潟商工観光課長）

20 人の内訳が手元にございませので、後ほど回答させていただきます。

後ほど確認

内訳 7 人が法人に就業、13 人が個人の新規就農

**(熊倉委員長)**

飯淵委員はどうでしょうか。

**(飯淵委員)**

実施事業と KPI についての評価ですが、これは U&I ときめき課としての評価と捉えてよろしいでしょうか。

**(若井 U&I ときめき課長)**

U&I ときめき課から「こういった形でどうか」とまち・ひと・しごと創生推進本部会議で諮って、「それで良いだろう」と評価をいただいたものです。

**(飯淵委員)**

全体の 1 番最後のところの「1 及び 2 の評価結果を踏まえた本事業の効果の検証」というのが、本部会議で諮られたというような説明ですが、本部会議に諮る前の U&I ときめき課の評価も同様と考えてよろしいでしょうか。

**(若井 U&I ときめき課長)**

そのとおりです。

**(熊倉委員長)**

石坂委員は初めてご覧になるとは思いますが、どうでしょうか。

**(石坂委員)**

これまでも同じ質問があったかもしれませんが、「南魚沼市でリモートワークを実施した者の数」の 58 人とありますが、私の肌感覚ではもう少し多いような感じもしているのです。この人数はどのように把握されたか教えていただけますか。

**(若井 U&I ときめき課長)**

この 58 人は、我々がイベント等を行って把握した数値でしかないので、おっしゃる通り実際はもっと多いのではないかと思います。

**(熊倉委員長)**

押木委員はどうでしょうか。

**(押木委員)**

先ほどの石坂委員の関連になりますが、この 58 人について、例えばイベント参加者にアンケートを取ってその回答者というような把握のされ方ですか。

**(若井 U&I ときめき課長)**

イベントに参加された数が 58 名です。アンケートも取っております。

**(押木委員)**

どのイベントでしょうか。

**(若井 U&I ときめき課長)**

例えば、2 ページ目の E-6 の関係の（リモートワーク推進の）イベントで、3 の現地交流会 31 名、その他、まちづくり推進協議会や観光協会などの市に関連する機構が実施したイベントを集計したものが 58 名となっています。

**(押木委員)**

現地交流会はこちらの資料に上がっておりますが、それ以外にもまちづくり推進機構などの

関連イベントで把握をされた数を足しあげた結果が 58 人という御回答でした。恐らく行政ではつかめない数字だと思いますが、1つの指標として、そういうものを挙げられているというふうに理解をしております。

もうひとつ、新規就農者について、いわゆる代替わりで就農された人はここには入っていないという理解でよろしいでしょうか。

**(西潟商工観光課長)**

私の手元の資料によりまよと、10名の方はすべて農家出身でございますが、代替わりかどうかも把握できていない状況です。

**(熊倉委員長)**

農家ではなくて、農家出身の方なんですね。

**(西潟商工観光課長)**

農家出身の方です。

**(高橋企画政策課長)**

補足ですが、今の御質問と同じ質問が、内部の推進本部会議でありまして、その際の答弁では、代替わりの方は、ここにはカウントしていないというものでありました。

**(熊倉委員長)**

農家出身の方が農業に戻ってこられて新しく新規就農されたというのは良いことですよね。

押木委員、たぶん県でもリモートワーカーの状況について数字を知りたいところだと思いますが、ほかの振興局等でそのような数値の把握をされていますでしょうか。

**(押木委員)**

出先の事務所でございまして、全県の政策をここで即答できる立場にないということはひとつ御容赦願いたいと思います。他地域の振興局についても、即答できる立場ではないということで、ここも御了承いただきたいと思います。

先ほど私がフリーハンドで申し上げましたが、恐らく、リモートワーカーの数については、行政がつかむのは無理ではないかと。つかめないものを何かの指標でつかんでいくしかないので、イベント、あるいはアンケートで把握をしてトレンドをつかんでいくものではないかと理解しています。

**(熊倉委員長)**

極めてもっともなお答えだと思います。これも苦慮されてらっしゃることだと思います。

それでは、金子委員、質問等あればお願いします。

**(金子委員)**

数字に対する質問はございませんが、リモートワークのところで、弊行でも事業所の皆様から人材不足ということで相談を受けることがあります。弊行にも人材紹介会社があって、収入の問題や就職するかどうかということで、就職する確率はそんなに高くないんですけども、副業として東京や県外にいながらリモートで仕事をする形なら「うちの会社でやってみようかな」という引き合いが最近非常に増えています。そういった試みはこの会議の性質とは違ってきまずでしょうか。

**(熊倉委員長)**

なかなか答えにくいかもしれませんが、お答えできる範囲でお答えください。

**(若井 U&I と き め き 課 長)**

UターンIターンの推進という立場からしますと、首都圏の企業に勤めている方がこちらに住

んで勤務する方が増えるのは非常に良いと思っています。首都圏に住んでいる方が、こちらの業務を受けるとするのは、企業の需要としましては必要なことかと思いますが、そこを市が推進するかというと少し微妙なところかなと思っています。

**(金子委員)**

ありがとうございます。それがきっかけで就職につながる場合も実際ありました。

**(熊倉委員長)**

地銀さんとしてそういう事例もしあれば差し支えない範囲で御提供ください。

それでは、質問事項はこれでよろしいでしょうか。私から2つだけ質問をしたいのですが、EC サイトの事業者が廃業してしまったとのことですが、令和5年度、6年度に向かって事業を進めるため、その後の事業者のあたりはどうでしょうか。

**(若井 U&I ときめき課長)**

EC サイトを稼働させたいというのは長い間考えてきたことでしたが、残念ながら廃業されて、他になかなか受ける方がいらっしゃらないというのが実情です。今、一生懸命探している状況です。

**(熊倉委員長)**

幸いに、その事業がここに計上できなかったとしても、ブランド製品の販売額等は上がっておりますし、無理のない範囲で今後この事業をどう位置付けるかと同時に新しい総合戦略にどう書き換えていくかというのも1つの課題かと思いました。

同じことですが、雪室について、さっき市長がおっしゃった話ですと、雪室を超えた大きな事業の展開をされているということですが、その事業は、この事業と重なっているのか、それとも別のことと考えたらいいのでしょうか。

**(若井 U&I ときめき課長)**

雪冷熱全体を推進しているということですので、雪室だけを PR しているわけではありません。今後も雪室以外で、今、市役所の前で実験をしております雪冷房ですとか、環境に非常に良い、身体にも良いというエビデンスも出てきておりますし、雪室商品に関しましては、糖度が非常に上がるなどの部分もあります。そういったものを含めて総合的に PR していきたいと考えています。

**(熊倉委員長)**

E-5 の①の「雪の集積・貯雪委託」という事業は、全体の雪室あるいは雪冷却の事業とは別個にこの中だけで、ひとつ完結されているとの考えでよろしいでしょうか。

**(若井 U&I ときめき課長)**

「雪の集積・貯雪」というのは、大原運動公園に雪を集積させておき、イベントや今回の実験などの機会があった場合にその雪を活用するといった形になっています。そのために1年間、大原運動公園に雪をとっておくといったイメージになります。

**(熊倉委員長)**

それでは、御意見を賜っていききたいと思いますが、今度は順序を逆に、金子委員から評価、御意見をお願いいたします。

**(金子委員)**

「雪と食」のブランド化というところですが、銀行の立場で言うと、工業のところ、「技術のまち」だということのアピールも必要なのかなと思います。若い人材が就職を求めて、地元にするのか県外にするのかという時に、理系であれば県外の有力な企業に勤めたいという

ころを、もし地元で自分の技術を生かせるような会社があれば、地元で就職したいということにもなると思います。南魚沼市の技術力といったものも必要なのかと思います。

**(熊倉委員長)**

今の金子委員の御意見は、例えば全体の評価に対する意見とすれば、農業振興という形で着実に人々が戻ってきていることは評価できる。しかし、それに加えて、工業分野、先端分野等についても積極的に移住、定住を進めるような形で、こちらの技術力の発信、あるいはPRにももう少し力を入れてもいいのではないかと御意見でよろしいでしょうか。

**(金子委員)**

はい。

**(熊倉委員長)**

次に押木委員をお願いします。

**(押木委員)**

全体の戦略プランの中で、特に人材育成・しごと創生を交付金事業として手を上げたということの意義を改めて考えますと、やはり若い世代が南魚沼市を住む場所、稼ぐ場所として選ぶためには何よりもまず仕事であるということが根本にあるかと思えます。そして、他ではなく、「この南魚沼市をなぜ」という時に、食と農が他よりも優れたテーマとして選定をされたということで、そこが引っ張っていくという発想であろうかと理解しています。

交付金事業として取り組まれている中で、特に「農 THE FUTURE」については好評をいただいているということもございますし、少し停滞しているということですがECサイトもこれから継続していくために必要なことだと思います。ではどういうECサイトを作るところでは、今御苦労されているということではございますけれども、必要性はあるということで、どうということなら実現できるのかという柔軟な取組をお願いしたいと思っております。

**(熊倉委員長)**

そうしますと先ほどの押木委員の御意見の前半部分について、食と農ということに焦点を当てて戦略的に進めていくことは大変評価できるということ、ECサイトについてはいろいろな障壁もあるだろうけど、柔軟に考えて計画的にこれを進めてほしいということを加えるということでもよろしいでしょうか。

**(押木委員)**

大きいECサイトを一自治体がつくろうと思ってもこれは大変な御苦労になります。そしてその苦労は本当に報われるのかということこれは未知数であります。小さいECサイトを今手軽に作るサービスは、随分一般的になってきたように思っております。そういうところから突破口が開けるといいかなと感じました。

**(熊倉委員長)**

押木委員がおっしゃる「柔軟」ということは、そういうことを強調して、有識者評価の中に書き込みましょう。ありがとうございます。石坂委員いかがでしょうか。

**(石坂委員)**

先ほどの質問に少し関連しますが、私たちの周りに事業創発拠点が最近、たくさんできてきたと思っています。大学の近くにも、大学生や修了生が協力をして作った拠点もあります。私の個人的な考えですが、会員制であると思いますが、会員になったら南魚沼市内のそういった拠点を全部使えるようにするとか、連携をすることで数字も取りやすくなるんじゃないのかというのを少し思っていました。

起業などを目指して今勉強してる本学の学生も少なからずおまして、そういった学生が大学の周りの拠点において、英語で会員登録ができれば、他の南魚沼市の綺麗で環境が良いところにも訪問させていただく機会もできるかなと思いました。

#### (熊倉委員長)

人材育成ということが大きな柱になっておりますので、特に国際大学は、グローバルであり、かつローカルですので、ここで生まれてくる事業創発拠点を有効に使って、全体の数字を伸ばし、戦略を実現してほしいということも意見として加えさせていただきます。

特定技能2号※の枠組みが広がってきます。閣議決定が終わってますので、おそらく秋の通常国会で法案が通ると思いますが、特定技能2号については、外国籍の方々が高度な技術を活かし長期間働ける場が、今まで本当にごく僅かな業種でしか開かれていませんでした。国際大学の高度な技術をもつ人材が、皆さんと響き合いながら、導入校となって、地域の様々な人々の人材育成につながる事がとても重要だと思います。

そのモデルをなんとかここで国際大学と連携をしていただきながら、特定技能2号枠を価値のあるものにする事業をしていただきたいと思います。それは私の意見として付け加えてもらいたいと思っております。

飯淵委員をお願いします。

#### ※特定技能2号

「特定技能」とは、外国人労働者の就労を認める在留資格で、特定技能2号の在留期間には制限がありません。認定には高度な技能水準が求められます。

このたび特定技能2号が就労できる事業の分野が2分野から11分野に拡大されることが閣議決定されました。

#### (飯淵委員)

今回の評価につきましては、お示しされたものでよろしいかなという印象を受けました。御承知の方も多いと思いますが、北里大学は、来年の4月に専門学校から新たに大学を設置することで進めております。正式には、文科省からの認可を待っているところであります。その中で新たな雇用の創出というものが当然生まれてきます。関東地区を含めての職員の募集を新たにかけたところ、結構な数の手が挙がってきています。その中で「LIFE in (ライフイン)」をご覧になって「ぜひ南魚沼で仕事をしたい」と手を挙げてきた方がいました。そういった地道な活動が非常に大事だなと思います。この冊子自体、私はかなりクオリティが高いものだとは個人的に感じておりますので、デジタルの部分と含めてこういった素材も必要かと思っています。

それからリモートワークに関しては、相模原市に北里大学の看護学部がありますが、新しく学部の設置に向けて、そこから教員が数名、南魚沼市に来ることが決まっております。ここに住んで、ここで生活をして学生を育てるという方法が一番良いのですが、中には新幹線で通勤して授業を担当するという教員もいます。私自身もそうですが、幸いなことにリモートワークが発達しているので、本部との会議など何不自由なくできていることもありますので、この地でいろいろな働き方ができると考えています。

もう一点は、学生たちが他県からここに来て、就職するときに、どこを選ぶのかということです。ぜひ、南魚沼市で仕事をしてほしい。特に看護師や保健師ですとか、人数を調べてみる



と、市外に出ていくほうがまだ多い実態があります。実際の問題として、南魚沼市の出身の学生が他県に行くこともやはりあります。これが何故かということで、「あなたは何で就職先を決めるのか」と学生にヒアリングをしてみると、保健師、看護師ですけれども、臨地実習先の病院で決めることもあるようです。やはりそこでの印象やそこで働いてる方々がどういう仕事に関わっているかということ、自分が将来こういう人たちになりたい、こういう先輩方に教わりたいという気持ちがそこで芽生えたときに、「この職場で働きたい」と思えるので、このようなことも市として考えていただくと大変良いと思っていました。

**(熊倉委員長)**

差し支えなければ、新しくできる大学の仮称名などを教えていただけますか。

**(飯淵委員)**

北里大学健康科学部といいます。2学科構成で、看護学科と医療検査学科です。

**(熊倉委員長)**

北里大学の1学部として新設するということですね。

**(飯淵委員)**

そうです。市長にも要望書をいただくなど大変御尽力をいただきまして、何とか来年4月開学に向けて進めたいと思っています。

**(熊倉委員長)**

先ほどの国際大学と同じように、北里大学健康科学部と連携をしてこの地域に対する移住定住をさらに進める施策を打ちましようということでもよろしいでしょうか。

先ほどの臨地実習生のお話はよく分かりました。私のところでもインターンシップで行ったところに大体決まっていますので、その受入を市との協力体制で強めてください。

それでは羽吹委員どうでしょうか。

**(羽吹委員)**

結果的に良い数字が出たんじゃないかなと思っています。特に農業については、一時期、後継者不足で、もうこの地域で農家やっていられないという人がすごく多かったと思います。そういった中で取り組んできた結果として、若い人が入ってきたということはすごく良いことだと思っています。やはり日本一のお米、ブランド米をアピールして、それを作ることで人が増えることは、本当にすごくありがたいと思っています。

自分の会社は建設業ですが、逆に建設業に従事する人はどんどん減っているので、ここについても何かやってもらえるとありがたいと思いました。農業をやる魅力をすごく分かってもらったのは、「農 THE FUTURE」などでアピールした結果ではないかと思っています。ふるさと納税でも米をかなり選んでくれて、この地域はかなり全国的に知名度が上がって、とても良いことだと思っています。

雪室についてですが、正直この地域では、まだ雪に対する悪いイメージを持っている人はすごく多いですよ。やはり、そのイメージをもう少し良い方に変えることができればもう少し効果が出るのではないかと思います。私はこの雪室はすごく良いと思っていますが、コスト的に一企業が実施する場合の単価はどの程度なのでしょう。良いことは分かっていますが、なかなか増えていかないのはそういったこともあるのかなと思いました。大きな会社は雪を使ったというPR効果があって、やっているのかもしれませんが、中小企業は、もう少しコストが下がらないとなかなか雪を利用できないのかなと思いました。ただ、必ず雪は降ってくるので、

雪を利用する方法は考えていった方が良いと思います。

それと、EC サイトは、かなり売り上げを伸ばしているところです。良いサイトを自分で作るのは難しいと思うので、良い EC サイトを見つけてそこをお願いするなどもいいのかなと、おそらく、米を売っている方は独自にやっている方もいると思います。

**(熊倉委員長)**

建設業にとって、雪がマイナスなものではなくて、どのように事業になっていくのかということ、是非、羽吹委員が中心になって、市の皆さんと一緒に新しい技術革新をお願いしたいと思います。やはり雪氷が変わってくるというのはとても大きいので、今回の事業は「みらいの雪国を創る」ですから、「雪国が未来を創る」というようにもう変わっていかないと問題は解決できないと思います。そういう意味では大きなプロジェクトとして国も巻き込んで考えていただく際に、建設業の事業者の皆さんが御一緒に声を上げていただくことはとても大きなことだと思いますので、そんなことも意見として付け加えていただければいいと思いますが、羽吹委員、このようなまとめ方でよろしいですか。

**(羽吹委員)**

はい。ありがとうございます。

**(熊倉委員長)**

それでは桑原委員お願いします。

**(桑原委員)**

評価については事務局の評価で良いかと思っています。南魚沼ブランドということになりますと、結構浸透してるんじゃないかなと思います。大きな額のふるさと納税がされているということで、南魚沼というブランドがある程度、全国的にも浸透しているのかなと思っているので、その点は非常に評価できるのかなと思います。

地域の公共交通の事業者として少し申し上げたいのですが、ほくほく線という公共交通を営業しており、南魚沼市と海側の上越市を結んでおります。ほくほく線の沿線というのは全国的にもかなり高い人口減少率で過疎化の地域です。なおかつ少子高齢化が非常に進んでおり、年々利用者が減少してきております。全国どこの公共交通も苦しんでいるところですが、輸送密度が 2000 人未満ということが新聞を賑わせたことがありましたが、弊社の場合ですと、2000 人にも達しておらず、昨年度でやっと 1000 人ちょっとくらいでした。コロナ禍では 700 人くらいの数字で、コロナのない通常の時でも 1500 人程度で、非常に利用される方が少ない状態です。

やはり人口が減っていく地域をどうしていくかということで、南魚沼市はそれほど人口減少率が高くないと思いますが、トータル的に新潟県が減少しているので、人材育成という話もありましたが、若者が他に出ていかない、あるいは出て行った若者が帰って来て就職するなど、そういった仕組みづくりがうまくできればいいなと思っています。まさにこの地方創生もそういったことが中心なのかと思います。ブランド化というのはある程度は成功していると思っていますので、今度はいかに地方が人を呼び込んで発展していくことが大事なのかと思います。

**(熊倉委員長)**

今、地方の公共交通は非常に厳しい状況だと思いますが、それを地方創生の中で少しでも改善する形の中に多くの人々に御協力いただくことを、全体の数字を上げていくという視点が必要かと思います。北越急行さんはバスも運行なさっているのでしょうか。

**(桑原委員)**

バスは運行しておりません。

**(熊倉委員長)**

分かりました。国際大学さん、北里大学さんも是非北越急行を学生、教職員に使っていただくよう御指示ください。私も意識的に上越線やほくほく線に乗るようにしております。

大体そのような形で、皆さんの御意見はよろしいでしょうか。今、逆に御意見が出たことについて、担当課として、さらに意見や決意表明があればお願いします。

**(若井 U&I ときめき課長)**

非常に貴重な御意見をいただきまして、また御提言いただいた部分をまた肝に銘じまして、例えば EC サイトですとかも、これからも何とか努力して、体制が整うようにしていきたいというふうに思います。また、工業分野などの必要性も当然重要と思っておりますので、いろいろな方と連携しながら、事業を進めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

## 資料 2-2: 「雪国で共に創るスポーツを通じた健康増進プロジェクト」

**(吉田生涯スポーツ課長より説明)**

**(熊倉委員長)**

1 つ目の事業と同様、まず質問ということで進めていきます。先ほどは逆に、今回は金子委員からお願いいたします。

**(金子委員)**

健康ポイントの周知は、事業所単位でもされているという理解でよろしいでしょうか。

**(吉田生涯スポーツ課長)**

各コンビニエンスストアの経営者に直接お願いして、設置していただいたというところで、25 か所となっております。

**(金子委員)**

弊行もウォーキングキャンペーンを定期的に行っています。トップから何位までは何かもらえるということで、そのときばかりはみんながエントリーして、1 か月に何歩、歩いたかを支店ごとで競い合っています。事業所単位でも実施できれば、健康になれるんじゃないかなと思います。

**(熊倉委員長)**

では、押木委員お願いします。

**(押木委員)**

お聞きしたいのはひとつです。最後のほうで KPI、目標の達成状況の評価で、いくつかの項目のうち達成したのは一部であったという説明がありました。やはり新型コロナウイルス感染症の影響で、イベントの開催も縮小したでしょうし、また開催したとしても参加者の数が低調であったということかなと理解しております。今後は目標に向けて復調していくであろうという見通しをお示しになりました。これはある程度、感染症の影響を受ける状況を脱したということで、これからはイベントも開催できるし、もくろみ通りの参加者を得られるであろうという見通しをされているのか、補足をお願いしたいと思います。

**(吉田生涯スポーツ課長)**

今ほどのご質問については、そのとおりであります。当課では、昨日もナイトウォークを開催しておりますし、その前はさわやかマラソンなどを実施しました。今年度の参加状況につきましては、おおむね8割程度となっており、一定程度戻ってきていると感じております。今後の数字の伸びについてもそれを踏まえて記載しているところであります。

**(熊倉委員長)**

では、石坂委員をお願いします。

**(石坂委員)**

国際大学で毎月、六日町駅の中の MUSUBI-BA (むすびば) で「IUJ むすびばカレッジ」というのを行っているんですけども、そこに向かう途中で、レンタサイクルに乗ってらっしゃる本学の学生ではない外国人の皆さんを目にしました。そういう取組をされてることを余り知らなかったのですが、目にする機会が増えるにつれて、私もやってみたいと思っていました。図書館や MUSUBI-BA (むすびば) に置いてあるレンタサイクルというのは、市民向けの健康増進のためのものなのか、それとも、市外から来られた方のための観光用なのか、市民が使ってもいいものなのかというのがよく分かっていないので教えてください。

**(吉田生涯スポーツ課長)**

当課が実施しているレンタサイクルの対象は、南魚沼市内に在住または在勤、在学する方です。どちらかというと観光ではなく市民向けに、通常の自転車のほかに、電動自転車など、こんな自転車があるんだというところを広く周知するような形で実施しております。

**(梅澤生涯スポーツ係長)**

少し補足します。南魚沼市の中で、レンタサイクルというのは、観光を主にする事業と、生涯スポーツ課が実施している市民がもっと自転車に乗って、健康になるという事業の2つの事業を実施しています。先ほどの MUSUBI-BA (むすびば) にあるものにつきましては、観光客をターゲットにしてるもので、こちらについては、観光客そして市民の方、両方の方が使っただけです。図書館と、池田記念美術館等で貸出ししてるものにつきましては、市民の健康増進をターゲットにしていますので、先ほど申しました、市内に在住、在勤、在学されてる方が利用できます。

**(石坂委員)**

南魚沼市に来てくださって、駅の周辺にあまり見るところがないと言われることがたくさんあるので、自転車のような交通手段がたくさんあったらいいなと思っていました。

**(熊倉委員長)**

飯淵委員をお願いします。

**(飯淵委員)**

質問は1点だけです。1ページ目の、1番下の E-5 のところで、幅広い世代の市民を対象にさまざまなスポーツ教室やイベント等が行われていて、回数もかなり多いと思っています。延べ参加者数ということなので、恐らく繰り返し出席されてる方も多いのではないかと考えていますが、具体的にどんな内容のものが開催されているのか教えてくださいませんか。

**(梅澤生涯スポーツ係長)**

この、幅広い世代が多様なスポーツで健やかな暮らしを実現するプロジェクトについて、南魚沼市では、総合型スポーツクラブというのが、1つございました。3年前に、新たにもう1つ立ち上がり、そこをより、皆さんに使っていただけるための支援ということで、今回この交付金を活用して実施しております。4月から11月は、例えばランニング、ヨガ、そして野球教室

といった屋外スポーツから室内スポーツまで幅広い事業を実施しています。会場は、大原運動公園や、石打の南魚沼市トレーニングセンターを利用しています。

**(飯淵委員)**

ありがとうございます。健康ポイント事業のところで説明があった若者や男性の参加が少ないというのは、このことを指していらっしゃるのでしょうか。

**(梅澤生涯スポーツ係長)**

健康ポイント事業とはまた少し違ってまして、健康ポイント事業は、保健課が中心となって、健康づくりをみんなで取り組もうという目的で事業を実施しています。この健康ポイントについては、自主的な日々の運動の取組や、南魚沼市がやっている事業等に参加することによって、ポイントを貯まるなどのインセンティブを与えて、皆さんに体を動かすことをより楽しんでもらおうという事業になってございます。この事業については、なかなか男性や、若い方の利用が伸びていないということです。

**(飯淵委員)**

よく分かりました。ありがとうございます。

**(熊倉委員長)**

なかなか男性や若い世代は、継続的に使いにくいということが現れているということですね。では羽吹委員、質問をお願いします。

**(羽吹委員)**

今、市民にはウォーキングをしている人が多いんですけども、健康ポイント事業の対象は、そういう人とは違うということなんですか、市のイベントに参加した人を対象にしているということなんでしょうか。

**(梅澤生涯スポーツ係長)**

そうではなくて、毎日ウォーキングやってらっしゃる方も対象となります。1日1回、何キロ歩くよという自分の目標を立ててもらい、達成するとそこにもポイントがつくような形になっています。また、自分が定めた目標だけではなくて、いろんな人と関わりながらスポーツを楽しんだとか、健康診断を受けて、より自分自身の健康を見つめ直すなど、そういうところでポイントを集めていただく事業でございます。

**(羽吹委員)**

分かりました。そうすると申し訳ないんですけども、私を含めてまだ市民の認知度は低いんですよ。かなりの人が目標を立てていろんな活動をしていると思うんです。1週間に何回歩く、何分以上歩くなどの目標を立てて実施している人も多いと思います。何かもうひと工夫、わかりやすく周知できればいいような気がします。

**(梅澤生涯スポーツ係長)**

ありがとうございます。おっしゃるとおり、こちらもなかなか、取組に一步を踏み出しているだけの方へどうやってアプローチしようかというのが、どんな事業でも課題となっております。いろいろと工夫を重ねてまいりますけれども、妙案がございましたらぜひ御提案いただきたい、よりよく変えていけたらと思っておりますのでよろしくお願いします。

**(熊倉委員長)**

助け船を出しますと、生涯スポーツ課は、事業の全体の統括ではあるけれども、健康ポイントそのものは、生涯スポーツ課ではなくて、健康づくりの他の課がなさってる事業で、かつ、市民からエントリーをしないとポイントが入らないということですよ。生涯スポーツ課とし

て多分答えにくいんだと思いますけど、そういう意味では市長のもとで一括して、いろんな形で市民の方々にこのエントリーをしてくださいと周知して、事業の普及に力をいれるというのが、羽吹委員の意見に対しての回答になるのかなと思います。

**(梅澤生涯スポーツ係長)**

ありがとうございます。

**(熊倉委員長)**

では、桑原委員お願いします。

**(桑原委員)**

質問はひとつだけですが、5-1のいわゆる市民の幅広い世代が多様なスポーツについて、まさにスポーツってものすごく多様で、なかなかニーズを把握するというのは難しいと思うんですけども、例えば、中高年の方が、仕事をリタイアした後に何か始めてみようかなというときに、どんなスポーツ教室があるのかなという単純な疑問、そういうニーズ、掘り起こしなどを行っているのかをお伺いしたい。

**(吉田生涯スポーツ課長)**

ニーズの掘り起こしについては、そこまでのものが実際できていないと考えております。ただ今、実施しているスポーツについては、一定程度の参加者があるものは続けていけますが、参加者が少ないと、やはりそれは短い期間で終わってしまうと思います。実施してみたけれど、なかなか続かなかつたということも、情報として集めることは必要かと考えておりますので、今後そのような形で取り組んでいきたいと思っております。

**(熊倉委員長)**

よろしいですか。私は2点ほど質問します。1つ目は、総合型地域スポーツクラブへの市外からの参加者数についてです。たしか前回も聞いたと思いますけれども、市民と市外があって、なぜ市外からの参加者数をKPIとされたのか、教えてください。2つ目は、レンタサイクルについてです。先ほど石坂委員からも御質問がありましたが、外国人の方が使ってらっしゃるということで、多様な外国籍の方々が使いやすいような表示やガイダンスができていますのかどうか。この2点について教えてください。

**(吉田生涯スポーツ課長)**

はい。まず1つ目の市外者の目標値の設定ですが、通常、市として行うことであれば、市民対象が一般的と考えておりますが、やはり広く市外の方も参加できる魅力があるか、スポーツだけではなく観光にまでつなぐことができるかということも含めて、どの程度市外から参加いただいているかというところをKPIとさせていただいております。2つ目のレンタサイクルの外国籍の方への周知という部分ですが、正直、市内にはおおむね日本語が分かる、読み書きが一定程度できる方が多く、全く日本語が分からない方への対応はまだ少し遅れているというところでは。

**(熊倉委員長)**

それはまず国際大学の中で、学生、教員に徹底してください。ありがとうございました。それでは御意見を賜りたいと思います。今度は桑原委員から逆に行きましょう。

**(桑原委員)**

この評価につきましてはこれで問題ないと思います。意見というか先ほどの続きなんですけど、やはりスポーツは本当に万民共通のものですから、健康ポイントもそうですけれども、この幅広い世代の健康増進といったものにスポーツが携われるように、何らかの形でニーズを把握で

できればいろいろなものが見えてくるとと思います。どういった方法がいいか、具体的には分からないですけど。また、自分で何かスポーツをやってみたいというときに、どう始めたらいいのか分からない、どこに相談したらいいのか、どこか協会に加入しなきゃいけないのかなど、そういうところもしっかりと情報発信していただければいいと思います。

**(熊倉委員長)**

そうしますと、評価としてはおおむねこれでよろしいけれども、より多くの人々が事業に参加できるようにはじめの一步を踏み出せるよう、もう少し広報周知を幅広くしてほしいということだと思います。そういう御意見でよろしいでしょうか。

では羽吹委員お願いします。

**(羽吹委員)**

事業の効果としては問題ないと思っています。スポーツを通じての健康というのは、やっぱりいいことでありますので、これはこのまま進めてもらいたいと思います。ただ、先ほどの健康ポイント事業については、参加者を増やすために各企業にパンフレットを送るのもいいと思います。企業は、健康について非常に気にしていますので、健康ポイント事業を利用したらどうかという話で持っていくのは、1つの方法論としてあると思っています。

それと南魚沼市は自転車というイメージが大分浸透してきているんじゃないかと思っています。私も自転車にたまに乗るんですが、後ろから自動車がかかるとかよく分からなくて、若干怖いところがあるんですよ。どんどん自転車に乗る方が増えると、事故が起きるのではと少し心配なところがあります。なかなか難しいかもしれませんが、例えば、自転車専用のレーンをつくる、田んぼが多いので農道を利用して、自転車優先にするのもいいのではないかと思います。そうした少しの工夫でいい方法となることもあると思います。

**(熊倉委員長)**

健康ポイントの普及、自転車のまちであるということに対する社会基盤の整備の推進、これについては市長のほうから御意見があれば、いただければと思います。

**(林市長)**

課長がばっちり答えます。

**(吉田生涯スポーツ課長)**

今ほどの自転車の走行についての環境整備につきまして、今、市内ではゴールデンサイクルルートとして設定してる路面に、矢羽根といって、矢印のような青くて大きいマークを表記することにしました。その空間は自転車の専用空間ですよということを、車やバイクなどの車両に示して、自転車がより安全に走行できるような取組です。今年度から始めた取組ですが、早い段階でコース内全部に引けるように、進めてまいりたいと考えております。

**(熊倉委員長)**

なかなか、サイクルルートをつくらうとすると国道、県道の問題もありますし、難しいことがある中で、一步として矢羽根マークは最低限必要だろうと思うんですね。

**(林市長)**

今、ナショナルルートに指定されることを目指しています。ナショナルルートというのは、国が指定する自転車専用ルートです。全国でも、まだ少ないです。東日本にはほとんどありません。特に雪国にはありません。その中でも当市は指定を目指しています。このルートは湯沢町と魚沼市とも組んで、100キロを超えるコースをメインルートに設定し、その脇にはローカル

ルートを設定しています。それぞれのまちを周遊できて、観光面にもいい影響がありますし、市民の利用がすすめば健康増進にもつながります。

将来的には、自転車専用ルートを含めて進めていけるか検討していきたいと思ひますし、湯沢町と南魚沼市の境界である石打付近のルートについては、国道で勾配も大きい赤坂というところではなく、旧道を整備して、自転車に安全に通ってもらふルートの整備を始めています。これらの整備が出来、さまざまな条件をクリアした上で、国はナショナルルートとして認定してくれますので、今はまさに認定に向けて努力をしている最中ではあります。よろしくお祈ひします。

本日は地方創生交付金の内容を皆さんに評価してもらふ会議なんですけど、実はこの事業に関連して他にもこういう事業を実施していますといったことなどをもっと言ひたいのですが、言っているとキリがなくなるので我慢し続けてます。いちばん言ひたいのは、縦割り行政に横串をどれだけ入れられるかということ。自転車の事業は、生涯スポーツ課だけの問題ではないです。福祉も関連しますし、観光も関連します。全部関連している問題ですので、みなさんからの御意見をたくさん伺って、横串を入れていって、本当に魂を入れるように進めていきたいと考えてお祈ひします。

#### **(熊倉委員長)**

羽吹委員の意見とすれば、生涯スポーツの推進ということを切り口として、「自転車のまち南魚沼」を明確にし、それに従った環境整備を市民、事業者、行政一体となって進むようにしてくださいということですね。これを意見として入れましょう。

では飯淵委員お祈ひします。

#### **(飯淵委員)**

健康診断を毎年行うときが、自分の健康がどうかということを一ばん気にする時なんです。健康診断はいいPRの場だと思ひていて、誰もが年に1回は機会があつて、ふだん健康について気にしない人もやっぱり、体重が増えた、体脂肪率がまた上がっちゃったなど、そんなことを気にすると思ひます。そういったときに絡めて、健康ポイント事業の紹介をすると、関心を持っていただきやすいのかなと思ひます。

あとは、総合型地域スポーツクラブのことです。私は今、実家が神奈川県川崎にあるんですけど、地元のスポーツクラブに実はもう12年ほど通っています。通ふ理由は、もちろん自分の健康づくりのためなんですけど、コミュニティの場でもあります。スポーツクラブでは世代を超えたいろいろな人と関わりがあつて、新たな交友関係が出来て、あんまり来ないと病気になるかなと心配する。そういうところは非常に大事だと思ひていて、それが結果的に長続きすることにつながる。スポーツを継続していくのはそれなりに大変なことなんですけど、みんなで楽しみながら、励まし合いながら、少しずつ続けていくということに少し意識を向けてもらふといいかなと思ひていました。

#### **(熊倉委員長)**

そうしますと、健康ポイントを検診等の場で普及啓発するようにしてほしいと、これは市町村国保だけじゃなくて各組合の健康診断の場でも当然普及啓発をしていくということでもあります。

また総合型スポーツクラブはスポーツ推進だけではなくて、コミュニティの場として世代間交流の重要なものですので、これを進めていただきたいという御意見をつけるということでもよろしいですね。



次は石坂委員お願いいたします。

**(石坂委員)**

熊倉委員長からもお話をいただいたのですが、レンタサイクルはまだ学内でも余り知られていない可能性があるので、学内周知を私たちでやっていきたいなと思ってます。それにあわせて、うちの学生も市民の一部なので、このような健康づくりのいろんなイベントのお知らせを学内に周知することは必要だと思っていて、今まで日本語のフライヤーだと本学の学生には難しく壁がありましたけど、日本人学生もいますので、リーダーシップの養成という意味でも彼らを協力者として、このようなイベントにうちの留学生や日本人が参加するという流れもつくり出せていけたらいいと思いました。若者世代がこういったイベントに参加しないというのは本学のイベントも同じなんですけども、やっぱり子どもたちを通じて親世代が参加するということは、大いにあり得るかなと思っていますので、そういった取組があったら私も参加してみたいなと思いました。

**(熊倉委員長)**

はい。そのとおりだと思います。

次に押木委員お願いいたします。

**(押木委員)**

市長さんと課長さんの冒頭のお話にもございましたが、県も自転車活用推進協議会に参画いたしまして、ただいま雪国魚沼ゴールデンサイクルルートの整備、利用促進に協力をさせていただいているところでございます。今後とも一緒に頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

という宣伝を前置きでいたしまして、本題に入ります。この事業は、市の総合計画の面から評価をいたしますと、全ての市民が健康で長寿でという切り口になっていると理解をしております。

デジタル田園都市国家構想交付金事業になぜこれが採択されたのか、国は一体何を期待しているのかということを考えましたときに、私が思いましたのが、「選ばれる御当地南魚沼市」であると。もちろん現に住んでいる若い世代がよそへ行かない。それから、あわよくばよそに暮らしている方々が、こちらに転入してこようという気持ちになるために、まずは仕事だという話は先ほど申し上げましたが、もうひとつ、ここにいれば健康的な暮らしができるんじゃないのかというイメージ、これが実は大切ではないかと理解しております。先ほどの委員の御意見にもありましたが、転入しようとする人にとって大切なものは、もちろん仕事も大事ですが、仕事でもなく学校でもない自分の居場所があるということなんだという話を聞いたことがございます。仕事以外の居場所と思ったときに、地元のスポーツサークルは、勝った負けたではなくて、一緒に夜、体を動かして、御苦労さんということで、何となく居る気になります。だんだんそこから地元の知り合いが増えていくというようなことがとても大事な要素なのかなと理解をしておりますけれども、そういう意味で、こちらの KPI の中で取り上げた総合型スポーツクラブが、市外からの参加者がいるということはそれだけ魅力的に、受け止めてもらえているんだと、こういうのがあるところなら、私は住んでもいいかなというものの指標になるのではないかと理解をしております。

また、もう 1 つの指標の自転車につきましても、ここにいればナショナルルートでいつでも走れるぞというようなプラスのイメージによって、移住定住を増やしていくというところが、

目標ではないのかと理解をしております。そういう中で、指標の中でもいろいろとポイントございますが、イベントをやりました、ということこれはインプット指標であります。参加者が増えました、となるとアウトカムの指標になります。さらに言えば、参加者が増えた結果、イメージが向上しましたとか、あるいは住民が喜んでますとか、そういうような最後のアウトカムを目指していこうではないかということだと理解をしております。

恐らく、こちらは国に提出しますと、どういうところをアウトカムで評価されましたかと必ず聞かれるのかなと思っておりますし、そういうところでは参加者を増やす、そして満足度を向上するということを目指しておりますと明確に説明をされますと、評価というものは上がっていくのかなと思っております。そのようなことを含めまして、事務局の原案に異議はございません。

**(熊倉委員長)**

はい。ありがとうございます。とてもきれいにまとめていただきました。生涯スポーツの推進について、アウトカムをより明確にして「選ばれるまち南魚沼市」を進めてほしいと、そのためには県は全力でバックアップをしてくださると、そういう御意見と承りました。ありがとうございます。

**(押木委員)**

できる限りですが。

**(熊倉委員長)**

最後、金子委員お願いします。

**(金子委員)**

内容、実績は申し分なくさまざまことに取り組まれているなと思います。先ほど健康ポイント事業の補足にもなるんですが、六日町駅を降りると、正面にドーンと山がありますので、トレッキングや登山もポイント化できるようにして、そういう人たちに周知がされると、市外から来た人もポイントを取って、南魚沼市にお金を落とすという仕組みができればいいと思います。あともうひとつ、魚野川の河畔について整備をしていただくと、市民もそうだし、私のような他から来て働いてる者でも、ちょっと天気の良い日に走りにいこうかということになると思います。そこは意見というか、お願いです。よろしくお願いします。

**(熊倉委員長)**

多分それも取り組んでらっしゃると思いますので、登山等の問題と魚野川河畔の道の整備の問題について、課長でよろしいですか、それとも市長が話したいですか。

**(吉田生涯スポーツ課長)**

たくさん御意見ありがとうございます。健康ポイント等の部分が何か非常に多かったかなと認識をしております。取組自体は特別珍しいものではないと思っておりますが、皆さんにどのように周知していくか、どうやって参加しやすい形に持っていくかということがやはりいちばん大事なのかなと考えております。また、今年度も紙で行っているものを、アプリを活用して行うなど、少しでも入りやすさを強めることが重要と考えておりますし、登山など项目的な部分については、本当にいろんなものが健康につながるということで対象になるよう進めていければと考えております。御意見ありがとうございます。

**(熊倉委員長)**

最後にひとつ尻馬に乗せていただきまして、私の意見とすれば、統合型スポーツクラブだけ

ではないんですけどそれを核として、部活動の地域移行、そこに位置づけられて進めていただくことが、やはり「選ばれるまち南魚沼市」ということで性格づけるといいますので、その対応を意見として加えさせていただきたいと思います。

もう4時を回ってしまいました。皆さんの次の御予定もあると思いますので、みなさん多々意見もあると思いますが、もし御意見ある方は、メール等で市にお返しいただくという形で、審議そのものは、これでとどめたいと思います。とても積極的な御意見をいただきましてありがとうございました。また、その他の要件について、事務局のほうから御説明ください。

## 議題②まち・ひと・しごと創生総合戦略 全体の進捗状況について

### (企画政策課 見留企画主幹)

資料3、資料4により令和4年度末現在の進捗状況を説明

### (熊倉委員長)

こちらについては、御意見をいただくということも大変時間がかかると思いますので、今回はこのような報告があったということとして、のちほど改めて見ていただいて御意見、御質問があれば、メールでお送りいただくということでもよろしいでしょうか。もう2時間半以上しっかり議論をしてきて皆さんお疲れだと思いますので、報告ということを進めさせていただきます。皆さんよろしいでしょうか。

### (一同)

異議なし

### (熊倉委員長)

どうもありがとうございます。

では、その他に移ります。

## 議題③その他

### (高橋企画政策課長)

その他としてこちらからはございません。事務連絡をさせていただきます。本日の議事録につきましては、完成次第、皆さんに発言の内容を確認していただいた上で、市のウェブサイトにて公表させていただきます。

この会議の次回の開催は、来年の令和6年の6月頃を予定しております。開催前、一月前には文書で御案内いたします。よろしく申し上げます。今回は、この事業の最終年度、3年目の評価をいただくということになります。

また、総合計画、総合戦略は、令和7年度が計画期間の終了年となっておりますので、新たな総合戦略を策定するために、令和6年度は検討が始まるということになりますので、この会議が招集されることがあれば、また別途でご案内したいと思いますので、御協力をお願いしたいと思っております。

### (熊倉委員長)

国の交付金に対する効果の検証を行う会議は、1年後であります。次の総合戦略総合計画を策定するために、臨時にもう一度会議が入る可能性があるということだけお汲み取りいただきたい。そのときには、先ほど御説明いただいたことについても、もう少しコンパクトにした形

であらかじめ意見交換ができるようになればいいということでよろしいでしょうか。

**(高橋企画政策課長)**

はい。お願いします。

**(熊倉委員長)**

定時刻を少し過ぎましたので、閉じたいと思いますが、どうしても発言しておきたいという委員の方いらっしゃいますか。では、以上で終了させていただきます。御苦労さまでした。

**(高橋企画政策課長)**

はい。ありがとうございました。以上で議事終了となります。本来であれば、関副委員長から一言いただき、閉会となるところですが、急遽欠席ということですので、これで閉会とします。大変ありがとうございました。

午後4時15分閉会